

### 第3話 汽車の旅

インド観光地と言えばタージマハールが有名ですが、僕達はデリーから汽車でよく出かけました。しかしこの汽車の切符を買うのが容易ではないのです。パスポートを持参してニューデリー駅の外国人専用の売り場に行くのですが、最初の頃売り場に行く階段の途中ガードマン風の男に「今日はもう切符売り場は閉まった」とさえぎられ引き返そうとしたら別のインド人が寄ってきてどうしたと聞くので訳を話したら、外に旅行代理店がありそこで手に入るかもしれないと言って親切に案内してくれました。結局そこでも切符は手に入らず代わりに観光バスを手配するからどうだという話になったのですが、もうお解かりですね。ガードマン風の男も全部グルでした。

ニューデリー駅は広くいくつもホームがあるのですが、ヨーロッパスタイルでホームに行くのに改札はありません。ところがアグラに行くシャタビーエクスプレスがどのホームかの表示がないのでその辺にいる人に聞くのですが何故か知っているのです。駅は全体に暗く汽車を待っているのか駅に住んでいるのかホームで毛布をかぶり枕元に靴を置いて寝ている人が沢山いて気をつけて歩かなければなりません。また僕が行った駅はどこでも派手な装飾の有料体重計が置いてあり、何故かアルワリアに聞いても解りませんでした。インドの人は汽車に乗る前に体重を量る習慣でもあるのですかね。駅のアナウンスは初めに『チャチャーン』という音が流れるのですが、いかにもインド的な哀愁のこもったメロディーで耳に残ります。また汽車はよく遅れるようですが気にしている人はあまり見かけません。友達夫婦がアグラからシャタビーで帰って来るのでニューデリー駅に迎えにいったら到着時間になったところで案内板が突然4時間遅れを表示、エー！という感じで出直したらまた直前で2時間遅れの表示。さすがに心配になって駅の案内所に事情を聞きに行ったのですが何の説明もしてくれません。それより案内所に集まっていたインド人が心配してくれて「大丈夫、汽車は走っている。スローリー、スローリーだ。」？！

シャタビーには2両だけエアコン車が付いていていわゆるグリーン車です。食事も出されるのですが、おしぼりのように畳んだナンにチキンカレー、ピクルス、ヨーグルト、飲み物などがトレイに載っており全体的に悪くありません。こうしてアグラ駅に着くといよいよタージマハール観光の始まりです。

